

アンケート調査にみる小学生とジンクス

川越 ゆり・滝澤 真毅

本研究の目的は、子どものジンクスについてのアンケート分析を通して、現代の小学生の間に流通するジンクスの実態の一端を明らかにすることにある。

アンケート調査は平成22年度に実施し、山形市内の小学校3校に在籍した5年生、総計220名を対象としている。

まず、本稿では、「ジンクス」を幸運、不運の別なく「縁起かつぎ、迷信的行為」と同義とし、「特定の出来事が幸運、不運をもたらすと信じること」と定義した。調査結果においては、不運に関するジンクスが幸運を上回ること、ジンクス行為が学年を追うごとに増加する傾向にあること、動物、植物、車にまつわるジンクスが高い頻度で見られることを示した。また、川越・滝澤（2011）における学生回想データとの比較を通して、出現頻度の高いジンクスが共通しており、子ども間でジンクスが伝承されている可能性のあること、反面、社会事情の変化に伴い、子ども間で流通されなくなったと考えられるジンクスもあること、ジンクスのヴァリエーションが減少していることから、ジンクスが均質化された形で伝承されている可能性があることを示した。

1. はじめに

子ども文化、とりわけ、“childlore”（子どもの間で伝承されている文化）を考える際に、子どもの作るジンクスは興味深いテーマのひとつである。Childlore 研究の先駆的存在である Opie and Opie によれば、1950年代のイギリスの学齢期の子どもの間には、様々なジンクスが流通していた。¹また、平成の日本で学童期を過ごした学生達からも類似のジンクスが多々採集されている。²

興味深い現象であるにもかかわらず、子どものジンクスについての研究は十分になされてきたとはいえない。本研究では、山形市内在住の小学校5年生220名を対象に行ったアンケート調査をもとに、現在の日本の小学生の間に流通するジンクスの一端を明らかにすることを目的とする。

2. ジンクスの定義について

具体的な論に入る前に、本稿における「ジンクス」の定義を明確にしておきたい。*Oxford Advanced Learner's Dictionary* をひくと、「jinx」の原意は“bad luck”（不運）あるいは、“sth that is thought to bring bad luck in a mysterious way”（不可思議な方法で、不運をもたらすと信じられていること）とあり、本来は不運のみと関わる言葉である。しかし、『ジンクス事典 恋愛・結婚篇』（荒俣宏編 長崎出版）や『学校の怪談大事典』（日本民話の会 ポプラ社）などを見ればわかるように、日本では、幸運、不運双方に関わる出来事について「ジンクス」という言い方が定着している。これを踏まえ、本稿では、「ジンクス」を幸運、不運の別なく「縁起かつぎ、迷信的行為（superstition）」と同義とし、「特定の出来事が幸運、不運をもたらすと信じること（the belief that particular events bring good or bad luck）」の意味で用いている。

「ジンクス」と「まじない」の区別についても述べておきたい。“charm”（まじない）の原意は、“to control or protect sth using magic or as if using magic”（魔術、あるいは魔術的なものを用いて、何かをコントロールしたり守ったりすること）である。本稿では、状況のコントロール性をまじないの本質的特徴と捉え、アンケート項目を分類する際には、「幸運、不運に直接関わる出来事がコントロール可能かどうか」をジンクスとまじないの区別の基準とした。例えば、「学校に行く途中で、黄色い車を3台見ると良いことがある」という場合、道すがら黄色い車に3台行き会うかどうかについては偶発性に大きく左右される出来事であり、自分ではコントロール不可能である。それに対して、「テストの時に青い鉛筆を使うと良い点数がとれる」という場合、テストの時に青い鉛筆を使用することは、十分、コントロール可能の範囲内にある。このような観点から、前者をジンクス、後者をまじないに分類した。

なお、「道に落ちているカラスの羽を見ると悪いことが起きる。エンガチョをすれば大丈夫」といった、幸運、不運に直接関わる出来事はコントロール不可能（「道に落ちているカラスの羽を見る」）だが、その後何らかのまじない行為（エンガチョ）が続く場合は、上記の判断基準に沿ってジンクスに分類した。

3. 調査方法

(1) 対象

山形市内のA、B、Cの3つの小学校に在籍し、平成22年6月の調査実施時に出席していた小学5年生（A小学校：男30名、女39名、B小学校：男33名、女40名、C小学校：男40名、女38名、計男103名、女117名、総計220名）を調査対象とした。対象を小学5年生としたのは、川越・滝澤（2011）の学生による回想データにおいて小学5年生で最も多くのジンクスが見られ、小学5年生がジンクスをまさに現在よくおこなっている時期であると期待したからである。

(2) アンケートの内容

①性別、②ジンクスの内容とそれをおこなっていたおおよその学年（複数事例の回答可）の質問項目について無記名、記述式で回答を求める形式で、アンケートを作成

した。これは、川越・滝澤（2011）が大学生を対象に回想データを収集したアンケートをもとにしたものである。

回答用紙には、学生の調査で得られたジンクスの事例（「黒いトラックを3台見たら、良いことがある」「けしごむに好きな人の名前を書いて、ぜんぶ使いきったら、両思いになれる」）、および、著者の一人（川越）が平成21年に神奈川県在住の小学校5年生男児から採集したジンクス（「道にカラスの羽が落ちているのを見ると良くないことが起きる。両手のひとさし指を合わせて、真ん中を手で切ってもらえばだいじょうぶ」）を例示した。

(3) アンケート調査の実施と回収

アンケート調査は、平成22年6月に、対象児童が教室に集合した場面で一斉にアンケートの配付、記入、回収をおこなう方法で実施した。

実施時には定型の説明文を用いて教示をおこなった。まず、幸運または不運な事象の前兆と解釈されるようなできごとが「ジンクス」である、という旨の説明をした。さらに、アンケート用紙に記載した回答例を示し、口頭で、学生から収集した中に含まれていた「クロネコのトラックを3台見るとよくないことがある」「テストのとき青いもようの鉛筆を使うとよい点がとれる」「救急車を見たら親指を隠さないと、親が早死にする」という例を追加して紹介した。そして、自分がおこなったことがある、あるいは友人がおこなっているのを見たことがあるジンクスをアンケート用紙に記入するように求めた。

なお、回答用紙に記載した「けしごむ」の例と、口頭であげた「鉛筆」の例は、いずれも、本稿で分析の対象としている「ジンクス」ではなく、「まじない」に類するものである。ことばの使い方には少々厳密さを欠くが、あえてこれらを例に含めたのは、幸不幸と関連する行動全般の想起を求めることによって、本研究で分析の対象としている「ジンクス」を多数収集することが可能となると考えたからである。

実際にアンケート用紙に書き始める前に、周囲の友人と話をしてもよい時間を設け、児童がジンクスを思い出しやすいようにした。また、記入を始めてからも、必要があれば友人と話すことを容認した。アンケート用紙への記入を指示してからしばらく経っても全く記入するそぶりのない児童には様子を見てことばをかけ、ジンクスを全く知らない、したことも聞いたこともないという場合には「なし」と回答するよう指示した。回答に要する時間は、長い児童で20分間程度であった。

220名の調査参加者全員からアンケート用紙を回収した。

(4) 回答内容の符号化と集計

ジンクスをおこなったことも見聞きしたこともない、記憶にないということを示す「なし」の回答は5人（男子4、女子1）であった。これは回答者の2.3%に相当する。

アンケート用紙のジンクスの記入欄から、1004件（「なし」を含む）の記述が得られた。なお、この際、「四つ葉のクローバーを見つけると良いことがあるが、五つ葉を見つけると悪いことがある」といった、複数の要素を含む記述については、「四つ葉」のジンクスと「五つ葉」のジンクスとに分割し、別のものとして取り扱った。

得られた記述には、縁起担ぎ的なもの以外の迷信的行動や分類不能なものなども多

数含まれていた。そこで、「～するとよいことがある」「～を見たときに…をしなれば悪いことが起きる」といった比較的純粋な縁起担ぎをジンクスとして抽出した。その結果、383件（得られた記述全体の件数の38.1%）のジンクスを得た。

それらのジンクスを、さらに、そのジンクスが結びつく事象の好悪（ラッキージンクスかアンラッキージンクスか）、ジンクスの成立を左右する条件の有無（「○回見なければならぬ」「途中で…をしてはいけない」など）、アンラッキージンクスの解除方法の有無（「エンガチョをすれば大丈夫」など）について整理した。さらに、ジンクスが言及している内容についてキーワードを用いたラベリングを数次にわたっておこなうとともに、そのジンクスをおこなっていた学年を符号化し、それらをもとに数値的な集計処理をおこなった。

(5) アンケート回答内容の集計結果

① ラッキーとアンラッキー

収集したジンクスを、ラッキージンクスとアンラッキージンクスとに分類し、それぞれの数を男女別に示したのが表1である。男女ともにアンラッキーな事象についてのジンクスがラッキーな事象に関するものより多く、全体ではアンラッキージンクスが

ラッキージンクスの1.5倍ある。また、調査対象の男児と女児の数がほぼ同数であるにもかかわらず、女児によるジンクスの回答件数が男児の1.6倍にのぼる。

表1 採集したジンクスの数

	ラッキー	アンラッキー	総計
女	98 (41.7%)	137 (58.3%)	235 (100.0%)
男	55 (37.2%)	93 (62.8%)	148 (100.0%)
総計	153 (39.9%)	230 (60.1%)	383 (100.0%)

② ジンクスをおこなっている時期

収集したジンクスについて、そのジンクスをおこなっている（いた）時期を、たとえば「今」という場合は小学校5年生の出現ジンクスとして、「小学1～3年」という場合は小学校1年、2年、3年の出現ジンクスとして符号化し、学年ごとの出現頻度を集計した結果が図1である。全件数383件の48.6%にあたる186件が、小学5年生でおこなっているジンクスとして回答されていた。これは、小学1年生の件数の4.0倍、小学2年生の2.6倍であり、ジンクスの出現件数は学年を追うごとに増加していることがわかる。

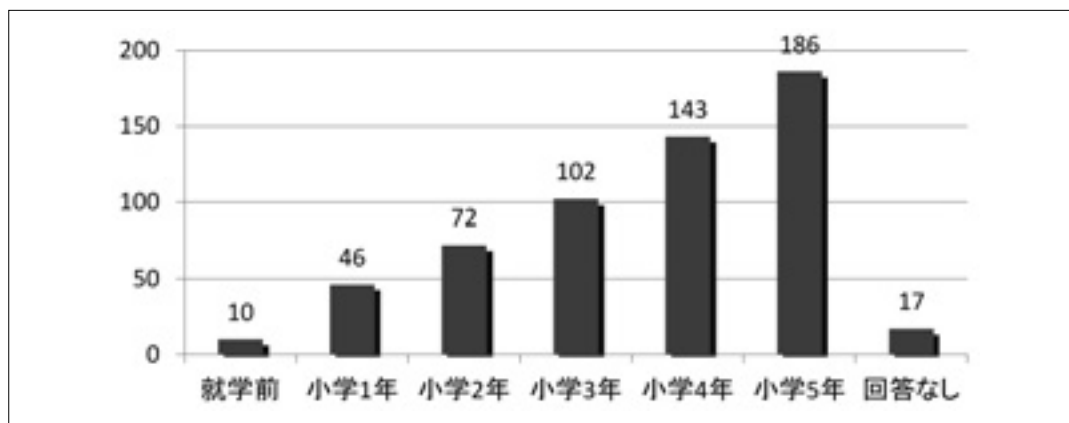


図1 ジンクスの学年別出現数

③ 内容項目の全体的傾向

ジンクスで取り上げられている内容を内容項目ごとに分類、集計し、頻度の高かった上位10位までを、表2に示した。動物、植物、車に関するジンクスが非常に高い頻度で見られることがわかる。ラッキージンクスでは植物と車のジンクスが圧倒的多数を占めている。アンラッキージンクスでは、動物に関するものが圧倒的に多く、アンラッ

表2 ジンクスの出現頻度上位の内容項目

順位	項目内容	ラッキー	アンラッキー	総計
1	動物	10	126	136
2	植物	56	41	97
3	車	41	20	61
4	葬式	0	18	18
5	流れ星	15	0	15
6	墓	1	10	11
7	夢	6	2	8
8	ケサランパサラン	4	0	4
8	ぞろ目	3	1	4
8	道	2	2	4

キージンクス全体の54.8%を占めている。次いで植物、車と続く。

葬式を出している家の前を通るときに親指を隠す、というものに代表される葬式のジンクスは、単独では車のアンラッキージンクスより少数である。しかし、車のアンラッキージンクスの中には、葬式のジンクスと同様に親指隠しを伴う霊柩車、救急車のジンクスが合わせて4件含まれている。墓のアンラッキージンクスをも合わせると、親指隠しと関係の深い「死」関連のアンラッキージンクスは、霊柩車、救急車を除く自動車のアンラッキージンクス16件を大きく上回る32件となる。表中では項目の分類上の都合で分散しているが、これらの「死」に関するアンラッキージンクス群は、アンラッキージンクスの中では動物、植物のアンラッキージンクスに次ぐ頻度上位にあるということができる。

④ 動物のジンクス

ジンクスの内容の中で最も多数だったのは動物に関するジンクスである。その内容の内訳を表3に示す。動物のジンクスのうちラッキージンクスは10件(7.4%)に過ぎず、大半はアンラッキージンクスである。

特に多いのは、「カラスの羽が落ちているのを見ると悪いことが起きる。エンガチョをすれば大丈夫」というような、路上に落ちているカラスなどの鳥の羽に関するものであり、動物に関するアンラッキージンクス全体の44.4%を占めている。次に多いのはネコのジンクスで、動物に関するアンラッキージンクス全体の25.4%である。ネコのジンクスの8割以上は、「黒ネコを見ると悪いことが起きる」に代表される、黒ネコのアンラッキージンクスであった。さらに、「ネコの死体を見てかわいそうと思うと呪われる」といった、動物の死体のアンラッキージンクスが続く。

表3 動物のジンクスの内訳

項目	ラッキー	アンラッキー	総計
カラス・鳥の羽	2	56	58
ネコ	0	32	32
死体	0	29	29
カラス*	0	7	7
クモ	2	0	2
ヘビ	1	1	2
青い鳥	2	0	2
カニ	1	0	1
キツネ	0	1	1
キツネ・タヌキ	1	0	1
テントウムシ	1	0	1
総計	10	126	136

*「カラス・スズメなど三文字の名前の鳥」を含む。

カラス・鳥の羽、ネコ、死体のジンクスを合わせると、動物のジンクス全体の87.5%を占めている。

⑤ 植物のジンクス

植物のジンクス97件のほぼ全部（96件）がクローバーについてのものであった。クローバーのジンクスの内訳を表4に示す。

クローバーのジンクスの過半数を占める55件のラッキージンクスの典型は、「四つ葉のクローバーを見つけると幸せになれる」というものだが、中には六つ葉、七つ葉について言及しているものもあり、そのほとんどがラッキージンクスであった。特に、七つ葉のクローバーは「永遠の幸福」をもたらすものとして言及されることが多かった。一方、五つ葉のクローバーはほぼ全数がアンラッキージンクス（例：「五つ葉のクローバーを見つけると不幸になる」）として取り上げられており、その数は31件とクローバーのジンクス全体の3割を超えている。

表4 クローバーのジンクスの内訳

項目	ラッキー	アンラッキー	総計
一つ葉	0	2	2
二つ葉	0	4	4
四つ葉	42	3	45
五つ葉	1	31	32
六つ葉	6	1	7
七つ葉	6	0	6
総計	55	41	96

表5 自動車のジンクス

項目	ラッキー	アンラッキー	総計
色	21	4	25
第一貨物	9	0	9
ヤマト運輸	0	8	8
ナンバー	3	1	4
車種	3	1	4
救急車	1	2	3
タクシー	2	0	2
霊柩車	0	2	2
トラック	0	1	1
パトカー	0	1	1
水玉模様	1	0	1
郵便車	1	0	1
総計	41	20	61

⑥車のジンクス

自動車のジンクスの内訳を表5に示す。最も数が多いのは車体色に関するもので、全体の4割を占めている。それ以外のジンクスは数が少ないが、その中でも多少まとまった数が見られるのは、第一貨物のトラックに関するラッキージンクス

（例：「第一貨物のトラックの象の絵を見るとよいことがある」）の9件、ヤマト運輸のトラックに関するアンラッキージンクス（例：「クロネコのトラックを見ると悪いことがある」）の8件である。そして、「黒地に黄色の文字のナンバープレート」の車を3台見るとよいことがある」といったナンバープレートのジンクス、「左ハンドルの車を見るとよいことがある」といった車種に関するジンクスが続くが、数はごく少ない。

表6 自動車の色のジンクス

色	条件	ラッキー	アンラッキー	総計
黄		19	1	20
(黄の内訳)なし		1	0	1
	3台	15	1	16
	3～5台	1	0	1
	7台	2	0	2
青	3台	0	1	1
赤	3台	0	2	2
同じ色	3台	1	0	1
白	3台	1	0	1
総計		21	4	25

車のジンクスの中でも特に数の多かった、車体色についてのジンクスの内訳を示したのが表6である。全体で25件ある

うち20件が黄色の車体色の自動車についてのものである。また25件のうち21件はラッキージンクスであった。他の車体色の場合も含めほとんどすべての採集例において、「3台見るとよいこと（悪いこと）がある」というような形で、台数に条件がついていたことも目につく。

4. 考察

今回のアンケート結果を、川越・滝澤（2011）における学生回想データと比較すると、共通性が多々見られた。学生回想データ（対象者数368名、ジンクス採集数689件）では一人当たりのジンクス採集数は1.9件だったが、今回の小学生アンケートでは1.7件で、ほぼ同じ割合である。また、図1で示したように、小学生アンケートでは学年が上がるにつれてジンクスの出現頻度が増し、小学校5年で最多となったが、同じような登り坂の傾向は学生回想データにも見られ、小学校5、6年生でもっとも出現頻度が高くなっていた。

小学生アンケートは全体の60%、学生回想データは64%がアンラッキージンクスで、両者ともに、幸運よりも不運に関わるジンクスが多くを占めた。特に、「カラスの羽」のアンラッキージンクスは双方に大きな割合で見られる。その大半が、アンラッキーの解除方法として「エンガチョ」を伴うことも共通している。同様のことは、アンラッキーの解除方法として「親指隠し」を伴う、葬式、墓、霊柩車、救急車の「死」のジンクスについてもいえる。黒ネコのアンラッキージンクスも小学生、学生ともに多く見られ、アンラッキーの解除方法を伴わない単純形が主流である点も共通している。学生が小学生だった時期から現在の小学生までのおよそ10年にわたり、これらのジンクスは子ども間で伝承されてきたとみなしてよいだろう。

伝承の可能性については、動物、植物、自動車（車体色、ナンバープレート、宅配トラック）など、ジンクスの対象の上位が共通していることからもうかがえる。カラスの羽などのアンラッキージンクスのほかにも、学生回想データで多数を占めた「黄色い車」のラッキージンクスや「クローバー」のジンクス（四つ葉はラッキー、五つ葉はアンラッキー）は、小学生アンケートでも上位に登場している。また、黄色い車のジンクスは「3台見る」という台数の条件を伴うものが典型であることや、クローバーのジンクスは、見つけるだけで幸運、不運が決まる単純形が多数を占める点でも共通している。

反面、ジンクス内容の頻度については相違が見られた。学生回想データでは、1位の自動車に関するジンクスと、2位の「動物+カラスの羽」に関するジンクスが突出して多く、いずれも3位の葬式に関するジンクスの4倍近くを占めていた。一方、小学生アンケートでは、動物（カラスの羽を含む）に関するジンクスが最多を占めたが、2位の植物に関するジンクスの1.4倍程度、3位の自動車に関するジンクスの2.2倍程度で、学生回想データ1位の自動車のジンクスほどは突出してはいない。

また、小学生アンケートでは自動車のジンクスが全体の16%で、36%を占めていた学生に比べると大幅に少ない。これについては、学生回想データで自動車のジンクスの43%を占めていた、佐川、赤帽、第一貨物、郵便車、クロネコヤマトなどの宅配トラックのジンクスが小学生アンケートでは31%に減少していること、さらには、学生

回想データで自動車のアンラッキージnkスのほぼ半数を占めていた霊柩車のジnkスが小学生アンケートではほとんど見られなかったことが、大きな理由として挙げられる。

なぜ、宅配トラックのジnkスは減少したのだろうか。ひとつの要因として考えられるのは、宅配トラックが以前ほど子どもの目を引かなくなった可能性である。国土交通省自動車交通局貨物課がまとめた「宅配便等取扱数」の年次変化表によれば、学生が小学1年生だった平成7年から今回のアンケートをおこなった平成21年までの間に、宅配便の荷物の取り扱い数は、14億3400万個から31億3700万個まで、約2.2倍に増えている。³また、ヤマト運輸の「宅急便30年のあゆみ」でも、取扱数がうなぎ登りに増えている状況をグラフで確かめることができる。⁴荷物の取扱個数の増加に伴って車両も増加すれば、道すがら、子どもが車両を目にする頻度は当然高くなる。その結果、宅配トラックの類いはありふれた存在と化し、ジnkスの対象としての魅力を減じてしまったのではないだろうか。

霊柩車のジnkスについても、時代背景がひとつの要因として考えられる。朝日新聞掲載の「霊柩車の金ぴか、イヤ 火葬場周辺住民「毎日見るのは…」 宮型締め出し150カ所」(2008年3月29日)や、「ド派手敬遠、霊“窮”車 「宮型」需要、ピークの半分 火葬場も制限次々」(2010年5月15日)によると、宮型霊柩車は人目につきやすい外装が火葬場周辺住民や遺族に敬遠され、洋型霊柩車に取って代わられつつあるという。2004年に全国霊柩車協会が行ったアンケートでは、全国で150ヶ所の地区が火葬場への出入りを禁止している。また、道路運送車両法に基づく保安基準の改定で、乗用車に鋭い突起物をつけることが原則的に禁じられたことも、宮型霊柩車の減少に拍車をかけたという。⁵

霊柩車のジnkスの大幅な減少は、このような時代の変化と無関係ではないだろう。表2を見るとわかるように、ジnkスの対象の多くは、動物や植物、自動車各種、葬式など、子どもが通学路の行き帰りに出会うものである。宅配トラックのように日常化されすぎたものが対象から外れる傾向にある一方で、宮型霊柩車のように日常ほとんど目にする機会がないものも姿を消していくのではないだろうか。

当然ながら、霊柩車のジnkスは、「親指隠し」を伴う死のジnkス全体の割合にも影響している。学生回想データでは、親指隠しを伴う霊柩車・救急車・葬式・墓のジnkスは、アンラッキージnkスの約34%を占めていたが、小学生アンケートでは9%程度にとどまっている。今後、親指隠しを伴う死のジnkスが霊柩車の減少とともに減じていくのか、あるいは、葬式や墓のほか新たな対象を見つけるのか、興味深いところである。

また、今回のアンケートと学生回想データで多数を占めたジnkスとを比較すると、典型例は伝承されているが、それ以外の種類が乏しくなっていることがわかる。例えば、黒ネコのアンラッキージnkスは、不運の解除方法を伴わない単純形が小学生、学生ともに多数を占めている。反面、学生回想データでは、「後ろに下がる」「白ネコを見る」「赤いものを見つける」など少数ながらもあった不運の解除方法が、小学生ではまったく見られない。同様に、黄色い車のラッキージnkスは、「3台見るとよいことがある」という台数を条件にするものが典型である点は共通している。反面、学生回想データに見られた、何らかの動作(手やポケットをたたくなど)や唱え文句(「スーパーキイロ」と唱えるなど)を条件にするものは、小学生アンケートには見

られなかった。

同様の傾向は、カラスの羽のジンクスにも当てはまる。このジンクスは、小学生、学生ともに、不運の解除方法としてエンガチョ（特に、ひとさし指のエンガチョ）を伴うものが典型である。また、小学生アンケートには、「両手の指を合わせて真ん中を手で切る」「親指以外の両手の指を合わせて真ん中を切る」「親指と小指を手で切る」「親指と人さし指を合わせて真ん中を手で切る」「両手で（あるいは両手の指で）輪を作ってその間を手で切る」など、学生回想データには見られないエンガチョの方法が挙げられていた（表7）。反面、学生回想データにあった、エンガチョ以外のアンラッキー解除方法——「後ろ歩きをする」「背中をたたく」「小指を噛む」「羽を踏む」「ごめんなさいを言う」など——については、小学生アンケートにはまったく見られなかった。現在の小学生の間では、より均質化されたジンクスが流通しているのかもしれない。これについては、さらに検討を重ねる必要があるだろう。

表7 カラスの羽・鳥の羽のアンラッキー・ジンクスと解除方法

解除方法	見る	見る・触る	持つ	触る	総計
エンガチョ	7	0	0	0	7
すべての指のエンガチョ	3	0	0	0	3
親指と小指のエンガチョ	1	0	0	0	1
親指と小指、親指と人さし指のエンガチョ	1	0	0	0	1
親指と人さし指のエンガチョ	1	1	0	0	2
親指以外のエンガチョ	1	0	0	0	1
人さし指のエンガチョ	28	0	0	1	29
輪のエンガチョ	2	0	0	0	2
なし	7	0	1	2	10
総計	51	1	1	3	56

結び

以上、全体的には学生回想データで上位に抽出されたジンクスの多くが、小学生アンケートにも見られた。子どもの中でこれらのジンクスが伝承されるという現象は、特定の地域というよりも全国的に見られる可能性が高い。2011年6月20日付けの十勝毎日新聞（本社 北海道帯広市）に掲載された小学生とナンバープレートのジンクスについての記事などは、ひとつの裏づけになるだろう。⁶ジンクスをおこなうことは、子どもにとってどのような意味があるのだろうか。それについては別稿に機会を譲りたい。

注

1 Opie, Iona and Opie, Peter. *The Lore and Language of School Children*. OUP, 1959, pp.226-252.

- 2 川越ゆり・滝澤真毅 (2011) 「学生の回想データにみる子ども時代のジンクス」
『東北文教大学・東北文教大学短期大学部 紀要』第1号, 3月, pp.83-103.
- 3 国土交通省 報道発表用資料 「平成21年度宅配便等取扱実績表」.
<http://www.mlit.go.jp/common/000118492.pdf> (2012年1月9日閲覧)
- 4 ヤマト運輸 「宅急便30年のあゆみ」.
<http://www.kuronekoyamato.co.jp/company/30th/index.html> (2012年1月9日閲覧)
- 5 朝日新聞社「霊柩車の金びか、イヤ 火葬場周辺住民「毎日見るのは…」宮型締め出し150カ所」(『朝日新聞』夕刊社会1面, 2008年3月29日. 「ド派手敬遠、霊“窮”車 「宮型」需要、ピークの半分 火葬場も制限次々」(『朝日新聞(大阪)』朝刊社会1面, 2010年5月15日.
- 6 十勝毎日新聞社「ゴシップ」『十勝毎日新聞』27面, 2011年6月20日.

参考文献

- 荒俣宏編 (2005) 『ジンクス事典 恋愛・結婚篇』, 長崎出版.
日本民話の会 学校の怪談編集委員会 (2009) 『学校の怪談大事典』, ポプラ社.